

魂と命のネットワーク

2007 June

S & L ネットワーク研究会 編

Spirit and Life Network Institute

はじめに

この本を書こうと思った理由から説明します。

私は2006年の1月から、パソコンを使ってさまざまな人が自由に交流するYahoo掲示板に「霊的な障害を自分で治したい人」というトピックスを「靈感おやし」というニックネームで1年以上運営してきました。

私はここで霊的障害への対処法の相談を行なっています。

タイトルを自分で治すとしたのは、私の経験から、霊的な障害は、決してたたられているのではなく、自分自身の過去生の因縁からやって来ている、あるいは霊魂自らの意思によって背負ってきているのだと確信しているからです。

ですから霊的な障害は、霊魂の進化のために自分自身で取り組むべきことであり、従来のような、霊能者や祈祷師などのその道のプロに頼んで対処してもらうことだという考えは、根本的に違うと考えています。

見えない世界のことですから、運営者である私の感覚の押し付けや、誘導、脅しにならないように細心の注意を払わなければなりません。

しかし、当たり障りの無いきれいな人生論を語っていてもお互いに時間の無駄ですから、霊的障害に関係すること限定して、相談者の過去生を教えることも、必要に応じて行なっています。

因縁を知ることによって霊障の意味が納得できて、その後の対応方法である鎮魂への心構えがしっかりと固まるからです。

掲示板の書き込みも一年あまりで1万を越し、このあたりで一度整理しておく必要を感じました。これが本にまとめようと思った第一の理由です。

第二の理由は、掲示板やホームページでアドバイスを行なっても、やはり伝えきれないものがあり、それを補うために対面セラピーというものを行なってきました。

対面セラピーというのは、実際に私と会って、霊的な対処をするための霊魂との対話法を教えたり、実際に会わないとわからないような複雑な因縁を調べたりする場です。

しかし、掲示板の訪問者は日本全国に広がっていて、中には海外在住の人
も居るという具合で、対面セラピーを行なうことは簡単ではありません。
離れていても、対面セラピーと同じような効果のあることが無いだろうかと
考えて、その結果思いついたのが、この本を作ることでした。

ホームページを充実させるだけでなく、本を作ろうと考えたのは、電子的
な映像では伝わらないものが、紙面でなら受け渡しが可能だからです。

紙に印刷された文や写真は、読者と霊界の支援者達との霊的なネットワー
クをつなぐための、アクセスポイントとも言うべきものです。
ふるめかしい呼び方をすれば、霊道と言われてきたものです。

この本には私達の霊的なネットワークを支援してくれる精霊達や幽界の
霊魂が写っている写真が多数載せられています。

これらを観ながら瞑想したり、鎮魂（イメージング）をする時、私達は広大
な霊魂のネットワークや命のネットワークにつながることができます。

その結果、霊魂と真摯に関わろうとする人を待ち構えるいくつかの霊的な悪
意や欺瞞から守られます。

つまり対面セラピーに参加して、私から直接伝えられるのと同じ効果がある
のです。これが、この本を書くことを決めた第二の理由です。

もちろん、霊魂のとの対話法を詳しく知るためには、対面セラピーは有効
な手段ですので、さらに深く探求してみたいと希望する人に対しては、今後
も続けてゆくつもりです。

私のことを少し語ります。

私が靈感といわれるようなものを、はっきりと自覚するようになったのは、
50歳を目前にした頃でした。

若い頃から見えない世界に興味は持っていて、ニューエイジ関連の本を読ん
だり、ワークショップに参加したりしましたが、そうした世界は、日常的に
は特別意識する必要は無いものと考えていました。

人間が抱えているエネルギーや環境に関する諸問題は、そうした世界観が
普及しなくても、人の理知により、いずれ克服されてゆくだろうと思ってい
ましたし、それほど未来を悲観的には考えていませんでした。

しかし、現在の私は、やはり人々の世界観が根底から変わらなければ、上記の諸問題は良い方向に変わることはないと考えてなっています。理知だけでは、人は自然と調和して生きることは難しいだろうという、ちょっと悲観的な方向に傾いてきているようです。

人が自然体で生きることができる世界を実現するためには、観念的な理想を唱えているだけでなく、環境やエネルギーの問題を解決しなければなりません、何よりもまず、命をつないで行くのに十分な食糧を、誰もが得られるようにならなければなりません。

食糧自体はこれ以上増産することは難しいと思われますし、科学的な方法で不自然な増産を目指すことには私は反対です。

今ある量を世界全体が分かち合えばよいと考えています。

なにやら大きな話になってしまいましたが、私を霊的な活動に駆り立てるのは、こういう想いなのです。

誰もが靈魂という人間の本質を考え、より高い価値に意識の軸足を置くことで、人々の世界観や命に対する認識が変化して、分かち合える世界観が自然に形成されることを夢想しています。

限られた食糧を分かち合うために現実的に必要な行動としては、肉食を止めて菜食中心の食習慣に移行することだと思います。

より具体的に言うならば、この本の主要な目的の一つは、命の自然に則して“菜食者になろうよ”という呼びかけでもあります。

皆さんが人間という存在の本質を感じて、最良の道を自分で考え、そして結果として、最も自分が望む食の形として菜食を選んでほしいのです。

でもこの本は実践のためのハウツー本であって、私の独りよがりな観念論を展開するためのものではありませんから、これを読んで霊的な世界観を実践しようとする人が希望する場合には、現実無理なく菜食者になれるような“出会い”も用意しました。これを読んで、私の世界観に共感してくれた人は誰でも菜食者になりたくなります。いや、冗談ではなく本当です（笑）最後まで読んでくれれば実感できると思います。

そしてさらにもう一つ、私を霊的な活動に駆り立てているのは、近年、人の世界観が自然を離れてしまい、その結果、多くの靈魂が未成仏となつて、魂の循環の本流から外れて、淀みの中に沈んでいると感じるからです。

私は死んだ人が好きです^^;

恐ろしい姿を見せられたりするのには困ったものですが、迷っている霊魂たちに、なにやら不思議な親近感を感じます。

生きている人は、組織社会の中で生き抜くために、しばしば無感情になったり、他者の苦痛に対して無関心だったりします。

それに対して死んだ人である未成仏霊魂は、とても感情がストレートで表現方法がシンプルです。現実世界を生き抜くために身にまとったヨロイを脱いだ“人の原型”のような存在だと感じています。

彼らは、自分達の思いが理解されないことに最も苦痛を感じています。

彼らが求めているのは私達が彼らの思いを理解することです。

一緒になって悲しみの海に沈むことはありません。

彼らは単なる“成仏できない悲しい愚かな、怖い存在”ではありません。

光を求めてさ迷う未成仏霊魂は、現実世界を生きる私達に、人の存在の奥深さを感じさせ、結果として、私達の魂の行くべき方向を教える存在です。

彼らを霊界へ導く行為を鎮魂と呼びますが、そのことが結果として私達に霊的進化の方向を教えてくれていると思います。

鎮魂という行為は、私達自身の魂を鎮^{しず}めることでもあるのです。



この本は大きく分けて以下のような構成になっています。

1. 基本になる世界観

私が考えている、世界の構造や意味を説明しています。ちょっと固い話ですから、できるだけわかりやすく書いたつもりです。鎮魂法を理解することの前提となるものですから、ちょっと我慢して読んでください^^;

2. 用語の説明

用語の解説をするために作りました。従来の概念と大きく異なるものもありますが、私が精霊と相談して決めたものです。

3. 霊魂に関する随想

霊的なことがらに関するエッセイ風の読み物です。気楽に読めますから、ここで一息入れてください。

4. 掲示板の記録

私の管理するトピックスは、支援してくれる精霊の計らいで、常に1～2週間の短期的なテーマを持って進んでいます。これまで起こったことを簡潔にまとめて、霊種別ごとに文章を書きました。

5. 対話法に関する注意事項

本を読んで、霊的な存在との対話を試みたくなった人に、対話法の実践に際して、前もってすべき準備や、注意すべきことを述べます。

6. 鎮魂の方法(イメージング)

霊障を解消するための鎮魂法を3つのイメージングに分けて書いてみました。セルフセラピーや、対話法の準備としても行なうべきことです。

7. Q & A

霊的なことがら全般に関して、良くある質問を掲載しました。霊的なことに不慣れな人には参考になると思います。

8. Photo Gallery

さまざまな霊的存在と世界が込められている写真です。

目 次

1. 基本になる世界観	1
2. 用語の説明	7
3. 霊魂に関する随想	13
4. 掲示板の記録	26
5. 対話法に関する注意事項	33
6. 鎮魂の方法(イメージング)	35
7. Q & A	39
8. Photo Gallery	45

1. 基本になる世界観

1.1 世界の構成

霊的な話をするためには、前提となる基本的な世界観を明らかにする必要があります。これについては、私と共に居る精霊と相談して書きました。概念的に説明すると、世界は当初以下の図のような構成でした。

人を含む動植物全体の命は、本源である^{しぜんしかい}自然四界と現実世界の間を循環しながら進化の道をたどっていました。

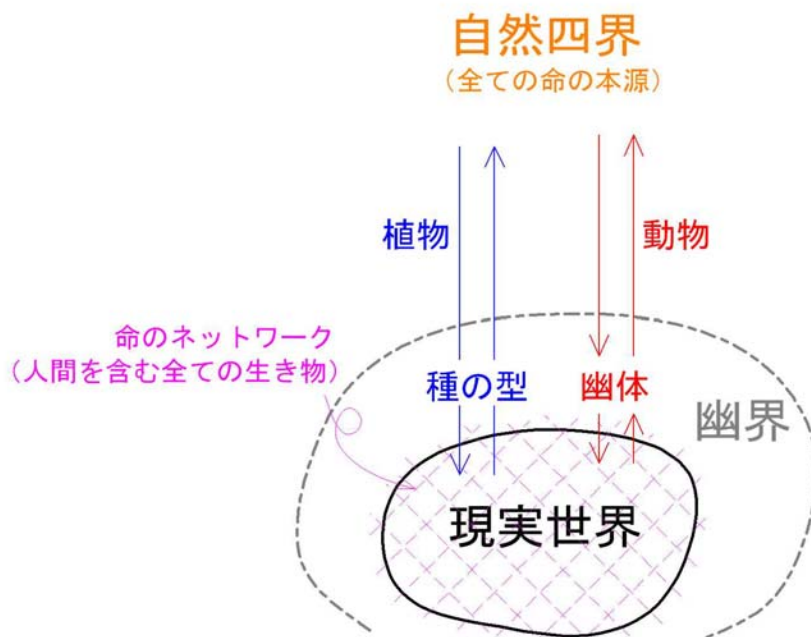
動物の場合は、死ぬと体は諸物質に還元されて現実世界を循環し、命は幽界を通して本源である自然四界へ還り、また時期が来れば現実世界に生を受けるというループを繰り返します。

幽界には、命が地上に個別の体を造る為の“^{かた}型”である幽体があり、ここを通過することで現実世界に実体化したり、またその逆に命の原型に戻ったりするわけです。

植物はちょっと違います。

植物は個体ごとに幽体を持っているわけではありませんが、それぞれの^{しゆ}種全体としての“^{かた}型”を持っていて、それにしたがって地上に実体化してきます。こうした構図が世界の基本だと考えています。

当初の世界の概念図



次に霊界の話です。

当初は前ページの図のような世界で、人間も動物の中の一つの種に過ぎなかったのですが、その後、天上の誰かさんの意思で^^; 霊体を持つようになりました。霊体は命の循環にあわせて、霊界と現実世界を行き来して転生を繰り返し、その進化の階段を昇り続けます。

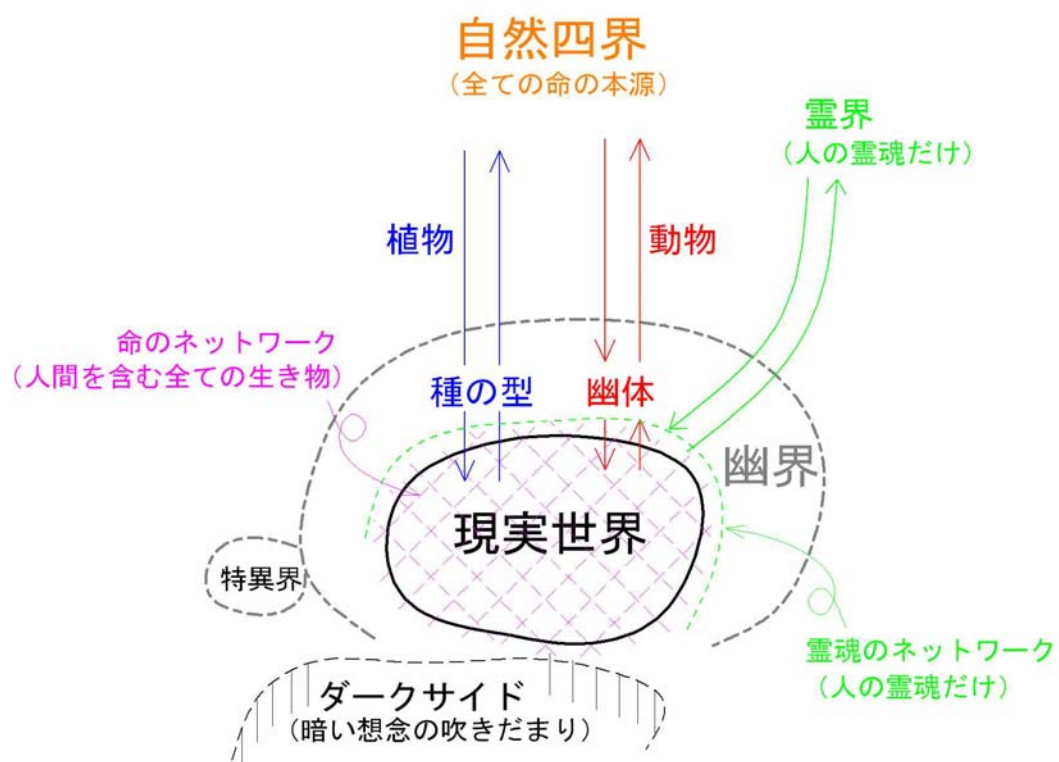
ですから、人という存在は、現実世界に属する**肉体**、幽界に属する“**肉体の型**”とも言える**幽体**、霊界に属する**霊体**の3者で構成されています。

人は憎しみ悲しみの想念に縛られて未成仏霊魂になり、幽界をさまよう浮遊霊になったり、一箇所に留まる地縛霊になったりすることもあります。この場合の霊魂というのは、霊体と幽体のセットを指しています。

未成仏霊魂は数百年経っても成仏できないと、暗い想念の吹きだまりである**ダークサイド**へ流れてゆきます。

世界の構成の話に戻すと、このほかに単独の霊魂が自分のために造った**特異界**^{とくいかい}や、その他の霊魂が居る小規模な世界もあります。全体図は以下のように考えています。

霊界ができた後の世界の概念図



1.2 転生

転生の間隔は一定ではありませんが、現在生きている人たちは概ね350年程度で転生をしてきました。ですから、現在大人の人の前生は、日本であったなら戦国時代末期です。大規模な殺戮もありましたから、大変な業を背負って生まれてきている人も多く居ます。

人の靈魂が転生を繰り返す目的を、カルマ（業）の解消であると考える人も多いのですが、私はそれだけとは考えていません。

人生を修行のようなものだと考えるのは好きではないからです。

多くの人が自然体でシンプルに生きられる時代がくれば、その時に人生の意味は見えてくると感じています。ゆる〜く、ゆきたいです^^

私自身は、魂は肉体を生きることには喜びを感じるから転生してくるのだと思っています。私は生きることが好きです。

靈的進化を遂げると、精靈になって肉体を持たなくなりますが、これは、自分自身の喜びよりも、他の靈魂の進化を助けることのほうにより多くの喜びを感じるようになるからです。

1.3 他の世界

人が靈的な進化の道をたどってゆくための、この地球のような世界は全部で7つあるようです。

地球はその中でも進化の度合いで言うと、第6番目の世界で、つまり下から2番目の世界のようなようです^^;

そして、この地球には靈界を経由して他の現実世界から転生して来た靈魂がたくさん居ます。靈的な進化の段階では先輩に当たる靈魂達が、後輩の指導のために、やって来ているというわけです。

私はこういう靈魂たちを“靈的経験値の高い”靈魂と呼んでいます。

非常に高い人は、ちょっと変わった天然系の人が多いです。

まだ、この世界になじんでいない人が多いからです。

自ら、多くの苦しむ靈魂を癒す目的で転生してきていますから、非常に深い靈的な障害を持っている場合が多いです。

しかし、一旦覚醒すれば、高い鎮魂の能力を発揮します。

1.4 幽界の靈魂

幽界は、まるで地球を取り巻く大気圏のように、現実世界の周囲に存在し、人を含めた自然の命が、本源と現実世界を行き来する時に通る世界です。

前に書いたように、幽界には全ての命の“^{かた}型”が存在し、これに命が流入して現実世界での姿が造られます。

また幽界には現実世界には生まれて来ない幽界固有の靈魂も居ます。幽界を維持するために、多数の靈魂が、それぞれの役割を持って存在しています。

上位の存在から言いますと、まずは幽界の管理者である^{ゆうかいれい}幽界靈がトップに居て、その下層にアニメ映画「もののけ姫」でシシ神と呼ばれていた、森や海などの自然の管理者である^{ゆうかいしよれい}幽界庶靈が、さらにその下層に^{しぜんれい}自然靈が居ます。

他にも^{いぬがみ}犬神や、キツネ靈やヘビ靈と呼ばれてきた^{どうぶつれい}動物靈が居ます。動物靈と言っても、現実の動物とは靈的には直接関係があるわけではありません。これらの幽界の靈魂にも寿命はあって、それが尽きると命の本源へ還って行くようです。それでは彼らを形作る“^{かた}型”はどこにあるのかというと、それは^{あゆうかい}亜幽界というところですよ。幽界の裏側の世界とも言える世界です。

幽界は、現実世界と密着した世界ですから、幽界の靈魂たちも、地上の山や川や海などの自然を^{よりしろ}寄代としています。

近年、人間の自然破壊が猛威を振るうにしたがって、現在、人とこれらの幽界の靈魂たち、とりわけ稲荷やその仲間のキツネ靈達との関係は非常に陰悪になっています。これはアニメ映画「もののけ姫」で語られていた通りで、このテーマは後の随想の中に書きました。

1.5 霊魂のネットワーク

(1) ネットワークと霊障

私は人の霊魂はつながりあうネットワークだと感じています。

私が、いわゆる靈感と称して、離れている人の状態を観るのは、このネットワークの構造を使っています。つながっている限り、どこまででもたどってゆくことが可能です。

私はよく、人という存在をコンピューターネットワークにたとえて説明します。P C ネットには、自分の中の情報を他者と共有するよう、外部に向かってオープンになっているサーバー（Yahoo などのネット業者のP C）と、つながってはいてもオープンにはなっていないクライアント（私達の端末P C）があります。

大抵の人はこのクライアント状態で、安全のために外部から自分の中に入られることを拒否しています。あなたもそうだと思います。

しかしあなたに因縁のある霊魂は、あなたと共通の情報を持っていますから、その情報の中からパスワードを容易に見つけ出して、たとえオープンになっていないあなたの中にも入り込むことはできます。

霊障というものはこのようにして起こります。入り込んできた霊魂は閉じた状態のあなたの中で大きな影響を発揮しますが、その実態は外部からはうかがい知ることはできません。

(2) 鎮魂の必要条件

しかし、あなたに取り付いて、霊障をもたらす霊魂も、いつまでもあなたを苦しめることだけを望むわけではありません。

彼らは、憎しみや執着にとらわれて、本来自分達が行くべきところがわからないのです。鎮魂によって彼らを癒し、霊魂が本来帰るべき霊界へ導くためには、思い切ってあなたの霊魂をオープンにする必要があります。もちろん外部に向かって自分を開くというのは、当然、勇気が必要な行為です。でも鎮魂というのは、霊魂のネットワークに向かって自分を開き、彼らが行くべき霊界の光を呼び込むことですから、この開くということをしなくては、なにも始まらないのです。

開くことによる危険を避けるためには、霊魂の状態を光と風のように執着の無いものに保つ必要があります。そのためには菜食が大きな意味を持ちます。

1.6 命のネットワーク

(1) 生命と病気

掲示板では霊障としての病気に対する対処法をよく質問されます。精神的な障害や、急激に起こった痛みなどは、霊的な対応だけで治ってしまうことが多いのですが、重い身体的な症状を伴うものは、根本的な対応である霊的対処は当然のこととして、それだけでなく、生命そのものの^{とどこお}滞りに対しても対応する必要があります。

(2) 命のネットワーク

人の霊魂がネットワークとして働くのと同じように、生命にも色々な生き物の生命が集まって全体で機能している“命のネットワーク”というダイナミックな働きが存在します。

(3) 命をつなぐもの

全ての生命は水によって成り立っています。水が無ければどんな生命も活動することはできません。ですから、現実世界で命のネットワークをつなぐものは水なのです。

この発想から、水のダイナミックな循環をイメージして行なうイメージング方法（鎮魂法）を創りました。

病気を、命の流れを妨げる滞りと考え、これを水の流れで押し流すイメージを使います。



2. 用語の説明

2.1 人の系列の霊魂

(1) 精霊（せいれい）

輪廻を繰り返し、高度に進化して肉体を持たなくなった人の霊魂を、私はこう呼んでいます。

精霊は地上世界から霊界までの全ての世界を自在に移動して他の霊魂の進化の支援をします。

実際に私の活動は、多くの精霊に支えられて進んでいます。

※ この本には精霊が写っている写真を多く掲載しています。

(2) 解脱霊（げだつれい／幽界に居る）

私は苦行などで輪廻を解脱した霊魂という意味で使用しています。

行によって輪廻を解脱し、人々の尊崇を得ても、神様になったわけではなく、結局のところ幽界で進化の無い孤独を味わうだけなので、数百年経つと転生の循環に復帰するため地上人に融合しようとしてきます。融合する目的は、融合した人が亡くなって霊界へ行くときに、一緒について行くためです。自分だけでは霊界へ行けません。自分から転生の循環を途中下車してしまった人だからです。

プライドが高く、丁寧に説得しないと霊界への移転に応じないため、これに融合されている人から彼らを分離する作業は、対面セラピーに来てもらって、私が直接対応することもあります。

(3) 非成仏霊（ひじょうぶつれいこん／幽界に居る）

未成仏霊と異なり、自ら霊界へ行くことを拒んでいる霊魂。転生を否定する宗教を篤く信仰するとこれになります。

神様が迎えにくるまで動かないのです。

(4) 魔物（まもの／第7世界に居る）

我々の世界よりも一段階進化の遅れている第7世界の霊魂の一つで、自己保存欲しか持たない純粋な存在なので、他に対してとても攻撃的。第6世界である我々の世界からは、地の底の理解しがたいものに見えるため、こういう名前と呼んでいます。

古くから霊能者は、呪詛^{じゅそ}を行うときにこの霊魂を呼び出して呪う相手に送りつけて利用してきたので、魔物自身は被害者だといえます。

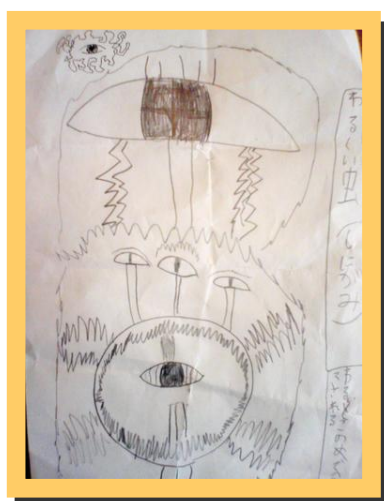
キツイ相手で、対峙すると危険を伴うため、因縁があってこれに入り込まれている人には、対面セラピーに来てもらって、私が直接対応することもあります。

(5) ダークサイド霊魂（ダークサイドに居る）

成仏できなかった未成仏霊魂の暗い想念の吹き溜まりをダークサイドと呼びます。

憎悪や恨み悲しみ、エゴなどのネガティブな想念の集まった世界です。その世界を受け容れた霊魂が”ダークサイドの霊魂”、その想念エネルギーの一部が個体になったものが”ダークサイドの霊魂もどき”です。

霊魂もどきへの対応としては、イメージングでできますが、気をつけることがあります。もともと、想念エネルギーのかたまったものですから、捕捉しにくい性質を持っています。全方向からの光の波が押し寄せてきて、包み込むようにイメージします。霊界の光を浴びると昇華して無くなってしまいます。下の絵はダークサイドの霊魂に入り込まれていた少年達が描いた、ダークサイド霊のイメージです。



(6) 滞留霊（たいりゅうれい／地上世界と幽界にまたがって居る）

未成仏靈魂の一種ですが、死霊や物の怪が死後の世界である幽界をさまようのに対して、われわれの居る現世界にとどまる靈魂です。

怪談話では、「魂こんぱく魄この世にとどまりてえ～」という定型フレーズがありますが、まさにこの世に留まっている未成仏靈魂です。

それほど悲しみや執着が強いのです。主に現実世界に居る靈魂ですから、生霊のような気配を感じます。

(7) 鬼（おに／地上世界と幽界にまたがって居る）

上記の滞留霊の中でも、特に恨み・憎しみ・怒りの想念が強いものを、人は鬼と呼んできました。

私は、まだ恨みの想念の鮮明な生鬼（なまおに）と、時間の経過とともに想念が薄れてきている枯鬼（かれおに）とに分けています。

また精霊が十鬼とおに、百鬼ひゃくおにと呼んでいる特別な鬼もいます。

ネガティブな想念が十倍、百倍激しい鬼です。

さらに強度が高いものとして、四百鬼、五百鬼、というようなものも居ます。ただし、数値はエネルギー強度ではなく、憎しみに対する執着の度合いを示しております。旧い靈魂ほど激しい数値を示します。

鬼は地上世界や幽界に居る霊エネルギーですから、”生霊”や”気”のような作用をします。ポテンシャルも高く、肉体にダイレクトに作用するので重篤な病の原因になります。

ネガティブなエネルギーで、人体の持つ生きるためのメカニズムを逆方向へ作用させて破滅へと導きます。典型的な例は癌細胞です。

十鬼や百鬼は非常に攻撃的で、幽界のエネルギーバランスが崩れるので、幽界の靈魂にとっても問題なのです。

現実世界にも幽界にも居場所が無いので転生せずに直接受肉して再度生まれてくることもあります。不完全な転生ですから、不安定な存在になります。

(8)死霊（しれい／幽界に居る）

死んだ人の霊魂がこの世（と言っても幽界）に残した霊魂。憎しみや悲しみの執着的な想念はあの世には持ってゆけないので、転生してきた霊魂が分霊して二つになり、片方が想念を引き受けて地上に近い幽界に残る。この暗い想念を抱えた霊魂を死霊と呼んでいます。死霊は浮遊霊地縛霊などになります。

霊界から転生してくる人は、自らの意思で自分に因縁のある死霊を、自らの霊魂で包み込んで癒し、霊界へ導くことを重要な使命として転生してくることもあります。

もちろん全ての人が自分で選択して背負っているわけではなく、転生後に憑(つ)かれている場合もあります。

(9)物の怪（もののけ／幽界に居る）

死霊と同じで死者の霊魂ですが分霊ではなく転生してきた本体です。幽界に居ます。生前から霊的な世界に関係していた霊能者のような人の霊魂も多くこの状態になります。

(10)未成仏霊魂

死霊、物の怪をまとめてこのように呼ぶこともあります。霊界への道筋を示すと、喜んで霊界へあがって行くものがほとんどです。鬼も未成仏霊魂ですが、分類上、未成仏霊魂と区別して“鬼”と呼んでいます。

2.2 幽界の靈魂

(1) 幽界靈（ゆうかいれい／幽界に居る）

幽界の靈魂全般を管理する幽界の管理者的靈魂です。

自然の命の循環に直接的に関わる高度な靈魂です。

最近、私の管理する掲示板にはこの靈魂と融合した人が増えてきました。人と幽界が緊密につながるといふ、新しい時代が始まったと感じます。

しかし、そのきっかけは人が生み出した新しい火の影響が、生命の庭である幽界にも暗い影を色濃く落とし始めていることなのです。

靈的な覚醒が進んだ人がこの靈魂と融合すると、自然に肉を食べなくなります。その結果、自然に対する直感が鋭くなります。

幽界靈は高度な靈魂なので、空気のような存在感で、融合されることは人の側の負担にはなりません。

(2) 幽界庶靈（ゆうかいしゅれい／幽界に居る）

アニメ映画「もののけ姫」に登場したシシ神。森や海の自然を護る統括者です。近年、森を追われて、居場所をなくしたシシ神も多く、人に対して攻撃的になっているものも居ます。→ 擬態靈参照

(3) 自然靈（しぜんれい／幽界に居る）

稲荷神、龍神など。稲荷はエジプトではアヌビス神と呼ばれています。ジャッカルの頭部を持つ男の絵を、壁画などでよく見かけます。龍神は人との間に新たな靈魂を生み出してゆきます。掲示板には龍神の親になった人がたくさん居ます。

自然靈ではないですが、^{いぬがみ}犬神も大きく分ければ、これらの仲間です。

(4) 動物靈（どうぶつれい／幽界に居る）

キツネ靈、ヘビ靈、^{しょうじょう}猩 猩（猿の一種）靈、などが居ますが、現実の動物であるキツネやヘビの靈魂とは無関係です。キツネ靈はとても人をからかうのが好きです。数千、あるいはそれを超える数で人を攻撃することもあります。攻撃力はそれほど強くは無いですが、人を混乱させるのは得意です。コックリさんは彼らとの遊びです。

(5) 擬態霊（ぎたいれい／幽界に居る）

日本では昔からオロチとか又エと呼ばれてきました。人に復讐するため複数の動物霊が集合してできた合成^{ごうせいじゅう}獣。

この他に、稲荷が変異体になった強烈な擬態霊や、シシ神が変態した超擬態霊と私が呼んでいるものも居ます。もともと強烈なエネルギーを持っているものが、自然を追われて人間への憎悪に燃えているので、とても強烈です。彼らは二度と元の姿には戻れないのですから、捨て身の攻撃姿勢だと言えます。癒されて成仏すると命の本源に還ってゆきます。

(6) 特異界霊（とくいかいれい／幽界と同次元の世界に居る）

幽界の外の自分だけの世界で独居している靈魂ですが、純粹で強力ですから、靈能者などが呪詛^{じゅそ}に利用してきました。

利用された後、自分では元居た世界に帰ることができないので、幽界をさまよっています。

癒してくれそうな人に入り込んでくる場合もあります。

(7) 妖精（ようせい／幽界に居る）

人の世界に寄り添うパートナーのような存在で、西洋では妖精と呼ばれ、日本では妖怪と呼ばれています。人の持つ善良で素朴な面だけを持っている存在です。

(8) 泡食霊（ほうしょくれい／幽界に居る）

妖精が人の行為に絶望して、変異して引きこもったものです。人の幽体エネルギーを吸い取る靈魂です。幽体エネルギーと言うのは、心靈現象のときに、靈媒が口から吐く泡のようなもので、心靈主義においてエクトプラズムと呼ばれています。この泡のようなものを喰うので、私はこの靈魂を泡食(ほうしょく)霊と呼んでいます。

人類史には世界各地に吸血鬼伝説が在りますが、この靈魂に命のエネルギーを吸われることを、物語的に語り継いだことがその源泉になっていると考えられます。

3. 靈魂に関する随想

用語集は初めて聞く妙な言葉が多くて疲れたことと思います^^

以下の文章は、私の霊的な世界観を説明するためにホームページに掲載している体験談やら、エッセイ風読み物です。気楽に読めるとと思います。

数年前に書いた文章もありますので、内容的にこの本の全体と整合していないところも若干ありますが、そのまま掲載します。



3.1 「転生のこと」

前世については、あまり考えないようにしていました。スピリチュアリズムの本には人は自分で自分の境遇を選んで生まれかわってくるのだと書かれています。

私も以前から、そんなもんだろなぁと思っていました。しかし、真実を確かめることなどできないことなので、前世とか生まれ変わりのことはあまり考えないようにしていました。

そんな私ではありましたが、知人のK氏との間に起きた霊的な事件ではからずも、上記の生まれ変わりの法則を確認させられることになってしまいました。

K氏と私は、ある療法の講習会で出会って以来、同県人であり同世代でもあったため親しく付き合っていました。

とある春の一日、久しぶりに私達はファミリーレストランで逢いました。話題は当然、共に学んだ療法のことが中心ですが、私はその療法を仕事にしようという意思は無いので、話題は無関係な事柄やあちらこちらに飛びまくりでした。

若いときから体に不調箇所を抱えてきたK氏は、普通の勤め人でありながら国内外のさまざまな療法に精通していて、話題にはこと欠きません。

2時間ほど話した時に突然彼の様子がおかしくなりました。首が妙な揺れ方をし始め、意識も薄れて半トランス状態になっているようでした。私の呼びかけには応答しますが、何かの強い力に体のコントロールを奪われているようでした。

しかし苦痛を感じているようでもなく、何とか座っては居られる様なので、どういう対処をしたものかと思案しましたが、なにか外部的なエネルギーが作用していることは間違いないので、とりあえず、その見えない相手に心で話しかけてみました。

私の問いかけに対する相手の答えを要約すると、相手の正体はものの怪でした。K氏が前世で首を切断した男が、恨みから成仏できず、地縛霊となり、300年以上の間行き場も無く、ものの怪となり、今生の彼に取りついているのだと言います。

いつからK氏の中に居たのかわかりませんが、K氏の精神と体の日常的な不調の大きな原因であったことは確かだと感じます。それでK氏はいろんな療法を勉強してきたというわけです。

どういう経緯でK氏が人間だった当時のものの怪君の首を切ったのかは聞きませんでした。

真実は確かめようが無いし、それ以上の詮索は興味本位の野次馬根性に過ぎないことですから。

ただ、このままにもできないため、30分くらいはものの怪君の言い分を聞いていました。

成仏するよう説得もしたいのですが、K氏の異様な動きや、こちらの様子をいぶかる近くの客達のことも気になって、ものの怪君との会話(?)に身が入りません^^;

そうこうするうちにK氏のトランス状態も解けてきて、どうやらものの怪君、おとなしくなってくれたようです。やれやれと安心し、ものの怪君とのやり取りをK氏に話して聞かせると、意外にもその話題には興味が薄いらしく、まるで他人事のようなリアクション・・・。

なにかすっきりしますが、とりあえず今日のところは無事だろうと思い、彼と別れて私は高速道路をひた走って帰路に着きました。

夕刻の高速道路を夕日に向かって走っていると、突然肩から首の辺りにズンと重い感覚が降りてきました。重さからして先ほどのものの怪君であることは明白でした。

今度は私独りで落ち着いて話せる状態でしたので、じっくり対処することができました。

300年以上も孤独に闇をさまよった彼は、もう地上の怨恨には執着は無いようでしたので、私が「ではもう行くべきところは、わかっていますよね。」と言いながら、夕日の方向に視線を移すと肩がグンと軽くなりました。

彼は光に向かって進んで行ったのだと思います。遠くなってゆく彼に、私は最後に一つだけ伝えたいことがありました。「あなたは、K氏が転生してくる時や場所をどうやって知ったのですか？ 人間のように物理的制約に縛られないものの怪といっても万能ではないはずです。

なにか特別な仕組みがあるのですか？」

答えはノーでした。

私は再度訊いてみました。

「では、K氏自身があなたに教えたのですか？」

答えはイエスでした。

私はやっぱりそーなのか、と思いました。人は自分で自分の境遇を選んで生まれかわってくるのだと知識で知ってはいたものの、こんな過酷な運命さえも抱きとめるために魂は転生してくるのだと改めて聞かされると、なんとも言えない気分になりました。

恨みに燃え、ものの怪となって闇の底に身を固まらせている姿は、情念に縛られる人という存在そのものの悲しい姿であるけれど、それを受け止めるために自ら転生を繰り返す魂の崇高さこそが人の本質であるという、うれしい確信を得た体験でした。

ちなみに、この時からK氏の首周りの痛みと気管支の慢性的不調は消失したそうです。

3.2 「もののけ姫」

金縛りを体験している人は多いと思います。私も若干ありますが、これは動物霊の働きによるものと考えています。動物霊は人間がキツネ霊と呼んでいるもので、この上層には自然霊が居ます。自然霊はお稲荷さんとか龍神などと呼ばれている神社のご本尊で、古来、眷属(けんぞく：神の使い)と呼ばれており、自然現象を司る存在です。

金縛りとかで直接人にちょっかいを出すのは自然霊ではなく、その下にいる動物霊たちです。

昔は人間も自然神を崇拝し、自然に同化して生きていました。日本の神道や海外のネイティブな民族の宗教は、自然の中に神の存在を感じ、この声を聞いていましたが近代的な自我を持った人類は、これとは違った、人間を主体とする世界観を持つようになり、自然の神々から離れました。

その後から現在に至るまで、人間が自然から収奪する勢いは激烈で、存在する場を失った動物の霊魂が人間に対して強い敵意を持つに至り、霊的なレベルで攻撃を始めました。この一つが金縛りですが、これ自体は人の命を脅かすほどの効果は無く、こけおどしのレベルです。

ただ、敏感な人間に働きかけて霊現象に注意をひきつけ、その後に霊能力の発現を支援したりすることで、自分の影響下に取り込んでゆこうとします。しかし、こうして霊能力を付与された教祖や超能力者達の末路は哀しいものです。

一時的には持てはやされ、注目を浴びますが、人間の大衆意識はとても

あまのじゃく
天邪鬼ですから、ほどなく飽きられて棄てられてしまいます。

そのときに、引き際を心得て冷静に行動できる者は少なく、一転して社会に対して攻撃的になり、凶悪な大事件を引き起こす、というようなシナリオが仕組まれているように感じます。

動物霊は直接人間を攻撃できないので、人でありながら社会に弓を引く”もののけ姫”を求めているのです。

人間は自然崇拝だけでは、その目指すべき靈魂の進化の道を行くことはできないでしょうが、エボシ御前のように自然を凌駕する（シシ神を殺す）ことを考えたら、どうにもならない行き止まりに突き当たることになると思います。

「街の中に森があるのではなく、森の中に街があるのだ。」
というのは、ソローの言葉ですが、人は物質循環だけでなく、命の深いレベルでも自然界の多様性を背後にして存在できているからです。

金縛りの後のシナリオを演じてしまうことは避けねばなりません、金縛りを仕掛けてくる者たちの痛みを感じられるような感性こそが眞の靈感であると思います。



3.3 「魂の進化」

仕事で親しくしているお客さんが3日ほど休んでいたの、どうしたのかとたずねたら、椎間板ヘルニアの腰痛だとのこと。

ちょっと表情の深刻さが気になったのでみると、彼の亡くなった祖母が腰に憑いていました。

何か伝えたいことが在るようでしたが、彼は霊的な世界観とは無縁なようなので、とりあえずおせっかいは焼かないよう自重しました^^;

祖父母、曾祖父母が孫などにつくことは良くあることです。彼らが亡くなった直後に生まれた孫・ひ孫は、命のチャンネルが開いていて、入りやすいのです。

命の終焉を迎えた時に、満たされない想いを抱えていた場合には、その想念エネルギーが地上に残ります。

転生してきた元々の霊魂は霊界へ戻ってしまうのですが、恨みや憎しみ悲しみの想念は霊界には持ってゆけないので、それらを抱えた自らの魂のクローンを地上に残します。

なんだか迷惑な話ですが ^^; これが霊魂の進化に必要なことなのですから仕方ありません。受け容れる霊魂の方もそれを承知で転生してくるようですので、別に悲劇ではないのです。

このような代謝を経て霊魂は進化し、そのネットワークを際限なく深化させるのだと感じています。

憑いていた霊魂を霊界に送り出すには特別な方法はありません。私はただ話をして納得してもらうのみです。特別なお経や豪華なお墓は不要です。

地上に残されたクローン霊魂は霊界に行ったことがないので、光の中に入ってゆくことをためらいますから、大丈夫だよと説得するだけなのです。

霊界の白い光の中で自我が焼き尽くされて、透明な霊体に戻るときの感覚は言葉では言い表せない至福の経験です。

3.4 「靈魂のネットワーク」

私はYahoo掲示板で「靈的な障害を自分で治したい人」という妙なトピックを運営しています。ここにアクセスしてくる人は皆さん実際に多くの靈的な問題を抱えています。

ここでは私は自分の信じるスピリチュアリズムという世界観に沿って訪問客と対話します。

靈的な障害を自覚して、自ら私のトピックに書き込む人は、靈界から自ら使命を選んで転生してきた人ですから、もうすでに靈魂の真理を理解する準備のできている人達です。

こうした人たちは、多かれ少なかれ、こころとからだに不具合を抱えて、その現状を打開しようとしている人でもあります。

私がお勧めしている方法に沿って靈魂と向かい合えば、その人の中に靈界人の悟性がよみがえり、靈的な障害を克服することはそれほど難しいことはありません。

靈的な障害を治すというのはその人の中に居る過去の因縁にとらわれて苦しむ靈魂たちを靈界へと解き放つことです。これを行うことはその人の靈性の進化にとって、とても意味のあることです。

ただし、現実に病に苦しむ人にとっては、内なる靈魂を解き放つことも重要な使命ですが、それと同様に自分の病状を和らげることが必要なのは当然です。

私は人間の本質が靈魂であるからには、靈的な障害を治せば、病気も回復すると確信していますが、実際には症状に改善が見られる人と、そうでない人に分かれます。

掲示板でも、ある人から自らの症状の改善の見通しについて訊かれました。私が見るとこの”治った人”と”治らない人”の魂にはある違いがあります。それは ”他者とつながる意識”です。

”治った人”はごく自然に私や他の多くの靈界人とつながっていますが、一方、”治らない人”の魂は他の魂と断絶しています。

私は、魂はネットワークであるということを確認しています。他者とのつながりの質を深めることこそ魂の持つ本来の目的なのだという確信です。

思うように鎮まらない心を抱えて苦しむ人は、自分の内側しか見られないのは当然ですが、あえてあらゆる魂とつながる瞑想をしてみてください。方法は自分なりでいいのです、というより自分の思いから自然に発する方法が有効です。

いきなり、広大な魂のネットワークにつなげることは想像が難しければ、精霊としっかりつながってみてください。彼らが無辺のネットワークへと導いてくれます。

自分を守る壁が溶けて、自分が無くなる怖さを乗り越えたとき、自然にあらゆる魂とつながっている自分を見出すでしょう。



3.5 「癒しのイメージング」

霊的真理に気づき始めた人にはある変化がおとづれるはずです。身体的なものに関しては、肉類のようなエネルギーの過剰なものや酒のような過度に高揚させるものを好まなくなります。

刺激的なものを摂らなくなってくると、体の中が静かになってきて、微妙な感覚や波動を感じやすくなります。

私は特に携帯電話の電磁波に弱くて、直接耳に当てるのは1分が限度です。2～3分を超えると激しい頭痛に襲われます。また、勝負事の結果にこだわらなくなりますので、スポーツ観戦などで熱くなったりしなくなります。

こうしてみると、霊魂の真理に目覚めることは、なんだかとても味気ない生活になりそうな印象を持つかもしれませんが、実際にこうなった人で、また元に戻りたいと言う人は居ませんから、これは人の霊魂の進化の宿命だと考えています。

自分の霊的な存在意義を自覚すると、必然的に色々な霊魂との遭遇の機会が増えてきます。霊的な気付きを得た人は、闇夜の中でただ一軒だけ雨戸を開け放している家のようなものですから、霊魂をひきつけます。

他の霊魂とかかわりになることは、わずらわしい面もありますが、ネットワークとしての霊魂の本質に基づくことですから避けて通れません。

現実の問題として自分や家族にそうした霊魂の接触が頻繁に行われる時には、それらの霊魂があなたを必要としていますから、彼らを霊界へ導いてあげてください。

霊的な真理を納得した人なら誰でもできます。霊界への誘導はイメージで行いますが、一つの例として私のイメージ方法を後のページで紹介します。

3.6 「霊界のネットワーク(その2)」

前ページで、霊魂の問題を解決すれば、病自体に対しても必ず効果があるはずと書きました。

病を癒すには、まずは、その人の霊的な状態を快晴にすることが最も重要であることは確かです。

しかし、実際にはそれだけでは体は快方に向かわないことがあり、さらに、魂のネットワークにつながる必要があると書きました。

実はこの魂のネットワークにつながるということは、なかなか奥の深いことなのです。私が見て、魂のネットワークにつながっていると見える人でも、現実には自然治癒力が発動していない人が居ます。

病を治癒するためにさまざまな治療を受けたとしても、最終的には自分の体の内側から自然治癒力が湧き上がってこなければ、決して治らないことは誰でも実感で知っています。

自然治癒力が十分に発動しない人は、その霊魂とネットを結ぶ回路の中に断裂があります。この断裂した回路を修復すると自然治癒力は回復します。ただし、自然治癒力が回復しても病の症状が癒えるには、それなりの時間はかかりますし、最終的には本人の生きる意志が重要であることは言うまでもありません。私ができることはこの回路の修復のみです。

私の目的は霊魂の真理を探究することであり、治療法の研究ではありませんが、霊魂のあり方を考える上で、人と病の関係はとても重要なことは当然です。しかし、今のところこの回路の修復について、誰でもできるというような方法論がありません。多くの人の協力が得られれば、私が繰り返し実験して証明し、その結果として、自然にできてゆくものだと思います。

人の体にかかわることですから、軽い気持ちではできませんし、細かいテクニックは面倒なので、全体をリセットしてしまえ、というようなアバウトな方法で実行するわけにはゆきませんから。

被験者の魂の機微^{きび}を細心に観察して、必要な部分のみに働きかける、というようなやり方になります。

3.7 「靈魂のネットワーク(その3)」

掲示板でのある人との問答です。

今日の相談は、実は不治の病で死に面してて苦しんでる人と、心の病で死にたいという人を知っているのですが、この人たちにはどういう対応したらいいか、どう教えたらいいか、ということと、自分が実際死ぬときはどういう心持ちでいるべきとか、何かそんなのありますか？

靈的な問題を抱える人と出逢ったときには、自分の信じる世界観を伝えたいくなるのは誰しも同じですね。ただ、現実にはこちらから働きかけてもほとんどの場合理解されることはありません。(十分に信頼されている場合を除いて)

目には見えなくても靈魂は複雑で深遠なネットワークで結ばれていて、このつながりの無いところには思いは通じません。ただ、このネットワークの上方に位置している高度な靈魂は、多くのつながりを持ち、広く働きかけることができます。

私たち人間も高度な靈的存在の支援を受ければ、上位のネットワークにつながります。

自分の靈的な世界観を他者に伝えるためには、まず支援したい他者と上位のネットワークを通じてつながることが必要です。上位のネットワークというのは、私の場合には私を支援してくれる守護靈および精靈です。このような存在の支援を受ければ、多くの人と靈的なネットワークを構築することができるのです。

ですから、他者のために祈る場合は、その人の靈的な障害をクリアにすることではなく、まずはその人と靈魂のネットワークでつなげてもらえるよう、支援してくれる靈的存在に対して祈るのです。

そのつながりができて、その人があなたの世界観を受け容れたら、初めて”靈的な障害を自分で治す”スタートラインにつくことができるのです。

自分の死に際して、どのような意識で臨むかは、上記のようなことを多く経験して、自分なりに靈的なつながりを実感できるようになれば、自然と固まってくることだと思います。

As wind As light



4. 掲示板の記録

Yahoo 掲示板で私が管理者をしている「霊的な障害を自分で治したい人」というトピックスには様々な人が、それぞれの想いを書き込んできました。どの書き込みも興味深いものですが、現在は膨大な量となっていて初めから読むのは容易ではありませんので、相談者参加型になってきた 2006 年 11 月頃からの書き込みの中から、テーマ別に印象に残る事例を拾い出して表を作成し、主要な出来事に関することは文章にしてみました。

4.1 掲示板の記録

年	月	内 容
2006	11 下旬	皆で行なう一斉鎮魂始まる
	12 上旬～中旬	各地の一斉鎮魂 ダークサイド
	12 下旬	◆九州対面セラピー、泡食霊確認・大量発生 関連トピ「白い光りに包まれて」立ち上げ 一斉鎮魂『1230 鎮魂』 幽界霊確認 幽界席霊 シシ神確認
2007	1 上旬 中旬 下旬	ダークサイドの霊魂・大量発生
		ダークサイドの霊魂もとき現れる
		◆京都対面セラピー開催 ダークサイド霊魂による入れ替わりに対応
	2 上旬	幽界霊接触開始 ◆千葉対面セラピー開催 ダークサイドのネットワークとつながる 幽界のネットワークとつながる 鬼のネットワークとつながる ◆毎週末のネットセラピー開始
		鬼の鎮魂 幽界霊が多くの人へ接触
		特異界霊 鬼の鎮魂 花粉対策
	3 上旬 中旬 下旬	擬態霊確認（ヌエ）現れる
		解脱精霊 亜幽界霊現れる
		幽界霊融合開始(3/30～4/3 ピーク) 擬態霊を癒す
	4 上旬 中旬	幽界霊が多くの人に融合してくる ◆京都対面セラピー開催 ダークサイド霊魂に入替わられる人発生 稻荷の擬態霊現れる シシ神の変異体である超擬態霊現れる ダークサイドの大規模な動き始まる

4.2 主な出来事

(1) 精霊・ネットセラピー

輪廻を繰り返し、高度に進化して肉体を持たなくなった人の霊魂である精霊は、現実世界を生きる私達の霊的進化の支援を使命としています。掲示板の常連さんの中にも、精霊に支援を受けている人は数人居ます。精霊達は、陰から人を支援してくれるので、掲示板の書き込みの中に、直接何かの行為をしてくれた、というふうに登場することはほとんどありません。

しかし、実際には私の管理している掲示板自体が、彼らの意思にしたがって運営されていて、私は彼らに支援されながら、掲示板で次々に起こる事象に対して、彼らに背中を押されるように対応している、という仕組みになっています。

掲示板では 2007 年の始め頃から、毎週末にネットセラピーを行なっています。ネットセラピーというのは、対面セラピーが実際に集まって行なう癒しであるのに対して、土曜日や必要な場合随時の夜にネット上でテーマを決めて、各人が自宅で行なうものです。

各人が別々に行なうと言っても、霊魂は一箇所に集まります。参加する人はネットで決めた全体のテーマと自分自身のテーマを思い起こし、気持ちを鎮魂に集中したら寝てしまいます。自分の霊魂が霊魂のネットワークにつながっていれば、必ず課題は克服されます。

こうしたことが可能なのも精霊の支援があるからです。

重要なポイントは、彼らは支援する役割ですから、当然のことながら私達人間が主体的に取り組むことが前提だということです。彼らに対して、神頼みのようなことをしても、全く反応しません。

(2) 解脱霊

苦行などで輪廻を解脱した霊魂です。2006年4月頃に、S・Sさんという、解脱霊の影響を長年にわたって受けていた人が、掲示板を訪れました。彼が言うには、自動書記のような現象を起こして（手が勝手にタイピングする）何回か書き込んできました。

このときの解脱霊は、生前には求道者だったようで、苦行を重ねた結果、解脱して至ったその場所こそが神の道だと主張していました。とにかく「こっちへ来れば神の道を教えてやろう。」という風な尊大な姿勢を崩さない霊魂でしたので、やり取りは自然消滅しましたが、その後、掲示板の常連さん2人のところを回って、私のところへ来ました。ある朝4時頃に重い気配に起こされて私の足のあたりを見ると、一見して彼らと分かる風体の男たちが5人立っていました。

要件は分かっていたから、「もう霊界へ行きますか？」と問うと、黙ってうなずいたので、光の方向へご案内しました。

また、千葉で行なった対面セラピーでは、参加した女性のUさんに2人ほど融合していたので、11年前からだと告げると、そのころに旅行で即身成仏した仏の安置されている有名な寺へ行ったと話していました。彼女は過去生でその仏達と因縁があったようで、彼女がその寺を訪れたことも偶然ではなかったのです。

彼女に融合している目的は、彼女が亡くなって霊界へ行くときに一緒について行くためです。自分だけでは霊界へ行けません。自分から転生の循環を途中下車してしまった人だからです。

人は数多くの転生を繰り返して、少しずつ進化してゆくようにできているのですから、飛び級を狙うのは摂理に反しています。

人々が自然体で生きられるようになれば、この地上世界こそが、喜びの世界であり、何回でも生まれてきたくなると思います。

(3) 非成仏霊

未成仏霊と異なり、転生を否定する宗教を篤く信仰しているため、自ら霊界へ行くことを拒んでいる霊魂です。神様が迎えにくるまで動かないのです。

掲示板には初期のころに時々出没していました。
光の方向を示すと大方、霊界へ上がってゆきます。

(4) 魔物・呪詛

古くから霊能者は、呪詛^{じゅそ}の時にこの霊魂を呼び出して、呪う相手に送りつけて利用してきたので、魔物自身は被害者だといえます。

私はそういう見方でこの霊魂と対峙します。

時々私の運営する掲示板にも、呪詛を掛けられている人が訪れます。一般の人は呪詛というものの自体を信じないので、対面セラピーの時には、せっかくの機会ですから、試しに弱い呪詛をちょっとだけ掛けてみせて、体験してもらうことにしています。

私は呪詛の掛け方を習ったわけではありませんが、原理が分かるので、やって見せることができます。

もちろん呪詛などというものは、決して行なうべきことではありません。過去生でこれを仕事でやっていた人は、今生でややこしい霊障に悩む人が多いです。

売れっ子の呪術者だった人は地縛霊になっていました。

(5) ダークサイド

成仏できなかった未成仏霊魂の暗い想念の吹き溜まりをダークサイドと呼びます。その世界の波動に共鳴した未成仏霊魂をダークサイドの霊魂と呼んでいます。

この霊魂は、掲示板にはしばしば登場します。

2006 年の 1 1 月には、掲示板に集まる仲間と、この世界の霊魂をまとめて鎮魂しましたが、その後も頻繁に出没します。

2007 年の 5 月には、相当な大物の強力な霊魂も登場して、霊体を入れ替わられる人も多く出現しました。

人類の歴史は、常に血なまぐさいものでしたから、ダークサイドの霊魂も常に存在し、それが生者に影響を与えて、また更なるネガティブな霊魂が生まれるという、ダークサイド霊魂の拡大再生産の負の連鎖が続いています。

ダークサイドの霊魂は人の世を、そして人という存在自体を否定していますから、生者に入り込んでコントロールし、凶悪事件や騒乱を起こそうとします。

これに入り込まれた人が全て犯罪を犯すということは無いかもしれませんが、少なくとも、凶悪犯罪を犯した人には、必ず入り込んでいます。もちろん犯罪者に罪が無いという意味ではありません。

掲示板のメンバーにも、これに入り込まれて、イライラ感がつのって自分をコントロールできなくなりそうになった人が何人か居ました。

ダークサイドというのは、映画「スターウォーズ」で使われている人の魂の暗黒面を指す名称ですが、憎悪に心を占拠されて、破局的な終末を求める、人という存在の不可思議さを感じます。

強すぎる光を求めると、深い影を作ることにもなりますから、ゆったりとした、柔らかな光が良いですね。

(6) 鬼

鬼が掲示板に現れだしたのは 2007 年 2 月でした。関東のセラピーの後に徐々に出現しました。その後、^{とおおに}十鬼、^{ひゃくおに}百鬼やそれ以上のものも現れるようになりました。用語の説明では、

「エネルギー強度が高く、肉体にダイレクトに作用するので重篤な病の原因になります。ネガティブなエネルギーで、人体の持つ生きるためのメカニズムを逆方向へ作用させて、破滅へと導きます。」

と書きました。霊的な見地から病気について触れるのは、とても難しいのですが、霊魂が人の本質であるからには、このことを避けて通れません。

鬼は、人の霊魂が個人や集団を激しく恨んで変異したのですが、同じネガティブな霊魂でも、ダークサイドの霊魂と違うところは、ダークサイドの霊魂は人の世を混乱させて乗っ取ろうとしますが、鬼はひたすらターゲットの破局を望みます。

恨む相手が個人であれば、その相手の苦痛に満ちた死を。

国家や社会であれば、その破滅を望みます。

また、ダークサイドの霊魂はダークサイドという自分達の世界を持っていますが、鬼は現実世界と幽界の境界上にいます。

ダークサイドの霊魂は集団で動き回りますが鬼は組織化されていません。

命自体を激しく呪う鬼は、現実世界にも幽界にも居場所が無いので、摂理にしたがって、通常の転生をせずに幽界から直接地上に受肉して生まれてくることもあります。不完全な転生ですから、不安定な存在になります。掲示板にもこういう人が数人居ました。

鬼になるような人は、もともと生真面目な人です。

単純な争いから恨みを持って鬼になっている者も居ますが、個人的な恨みよりもむしろ、人という存在の狡猾さや残虐性に対する義憤、怒りなどが原因になっていることが多いと感じます。

人は昔から鬼という言葉で、“仕事の鬼”とか“鬼神のごとき働き”というように、真剣さや強さの表現に使ってきました。

(7) 幽界の靈魂

幽界の靈魂と人との関係は、前に書いたように必ずしも良いとはいえませんが、今年の初めから幽界の管理者である幽界靈が人に積極的に関わる姿勢を持ち始めました。

人と幽界が緊密に連携するという、新しい時代が始まったと感じます。

しかし、そのきっかけは人が生み出した新しい火の影響が、生命の庭である幽界にも暗い影を色濃く落とし始めていることだと感じます。

この火は20年以上前にヨーロッパの北の国で重大な事故を引き起こし、世界規模の自然と人に深いダメージを与えました。

この火の影響は、人に関しては目に見える肉体的な次元だけでなく、目には見えない幽体に深いダメージを残します。

厄介なのは、幽体のダメージは今生では表面上に現れなくても、次の転生において、人の身体の形成に重大な影響を及ぼすことです。

この影響は人の幽体だけでなく、幽界の靈魂にも及んでいますから、幽界靈も放置できなくなってきたのです。

私達は、これまでの人の歴史には無かった新たな局面に遭遇していると言えます。

私達が行なっている鎮魂の眼前の目的は、迷っている靈魂を光に導くことですが、鎮魂によって得られる果実はそれだけではありません。目には見えなくても、私達は様々な自然の命とネットワークを結び、それらと交わりながら存在しています。

それは科学的な思考によっても表層的な理解はできることですが、目に見えない命の深いつながりを実感することで、より深くイメージすることが出来ます。

環境問題を考える時にも、自然の命の背後には人の命と深くかかわるつながりが存在することを実感することが大切です。

命はネットワークですから、単独では存在できません。

鎮魂は命の真実を実感させてくれる行為なのです。

5. 対話法に関する注意事項

人は昔から、ダウジングなどを行なって霊魂と対話をしてきました。私も対面セラピーでは、参加者に霊魂との対話法を教えます。見えない世界に関することをやっているのですから、何かしら確認する方法が無いと、自分で納得して取り組むことはできません。

対面セラピーで、私はオーリングテストに似たパワーチェック法を使って自分とつながる霊魂達と対話する方法を教えています。私自身は普段、この方法で霊魂と会話しているわけではないのですが、一般の人には、これが最も簡単だからです。道具も不要ですしね。

ただ、どのような方法を使うにしても、注意すべき重要なことがあります。それは自分の体の“気の流れ方向の逆転”と“キツネ霊の介入”です。ほとんど100%の人は、この2つに遭遇して混乱させられ、対話法を不確実なものとして、あきらめてしまいます。

“気の流れ方向の逆転”は、未成仏霊魂と接触すると起こります。ダウジングやオーリングテストは気の流れの影響を受けますから、逆転すると、全ての答えが逆になります。男性が「私は男です。」と言い切っても、答えは「No」になります。現実にかかなりの頻度で起こります。これに気づかずに続けていって、とんでもない“真実”を教えられて混乱している人がよくいます。

“キツネ霊の介入”は、質問する相手をしっかりと特定しないと、（守護霊さんなど）手ぐすね引いて待ち構えているキツネ霊たちに、面白がって介入され、間違った答えを与えられます。コックリさんなどはこの典型です。また瞑想中に光と共に現れて、なにやら大そうなご託宣をたれる神様風の霊魂は間違いなくキツネ霊です。

信心深い人ほど「あなたは本当に神様ですか？」と訊きかえせなくて、そのまま信じて振り回されたりします。

キツネ霊は、人をだます意図をもってうそをつくことはしませんから（業を背負うので）「あなたは、ほんとーに神様ですか？」と訊きかえせば、舌を

ペロリとだして、行ってしまいます。

この時に、「ほんとーに神様ですね？」と訊いてはいけません。それに対してコックリとうなずいたとしても、相手の勝手な思い込みに同意しただけですから、“だます意図をもってうそをつく” ことにならないからです。ほとんどの人はここで引っかかります^^

相手が真に高度な存在であれば、私達が疑い深い対応をしても怒りはしません。安心して訊き返してください。

目に見えない相手と対話するのですから、不確かな感じはぬぐえませんが、これらの基本を守って行なえば、繰り返し行なっても、確かな答えが得られるようになります。

このあたりのニュアンスは、文章では伝えることが困難ですから、興味のある人は対面セラピーに参加すれば、詳しい説明が受けられます。先にあげた注意点と重複する部分もありますが、基本的な注意点は以下の2点です。

1) 問いかける内容

鎮魂に関係あること以外に使うと、キツネ霊にからかわれるだけです。たとえば、占いとか失くしたものを捜すとかなどです。

未成仏霊魂のように、救いを求めて声を発している相手とは会話できますが、声を出さないモノとは会話できません。

間違った答えを与えられて、翻弄されます。

霊魂に訊いてよい事柄かどうかを、まず最初に質問するという手もあります。「No」だったら、止めればよいのです。

2) 気の流れ方向の確認

未成仏霊魂などに触れると、人の気の流れ方向は逆転し、気の流れに影響を受けるダウジングやオーリングテストなどの答えも逆になります。前ページで書いたような基本確認（「私は男です。」など）をしてから、対話法に取り組みますが、一旦混乱してしまうと確認自体に自信が持てなくなりますから、特に初心者は対話法の準備として、必ずセルフセラピーとして“光のイメージング”と“水のイメージング”を行なってください。それで気の流れの逆転とその後の対話へのキツネ霊の介入は防げます。

6. 鎮魂の方法(イメージング)

6.1 鎮魂の基本姿勢

祈るという行為は誰でも知っていますが、その目的は未成仏靈魂を靈界へ導くことですから、この目的を果たすために、いかに祈るのかということが問題です。

私は祈りというものは、単なる思いや願いである内は、靈界や幽界あるいは現実世界に働きかける力はないと思っています。

たとえば成仏できない靈魂を靈界へ送るには、まず自分の命を彼らの前にさらして靈魂たちの進化のために自分の魂を媒体として差し出す覚悟が必要です。

自分を靈界への通路として使用してもらうつもりで、靈界につながる自らの魂を通過させることで彼らを靈界に案内するわけです。

憑かれて苦しむ自分ではなく、死霊たちを靈界へあげることに意識を集中することが必要です。

これを他人のためにするのは、なかなか難しいことです。

それで私は”靈的な障害を自分で治す”という方法をお勧めしているのです。

6.2 イメージング

以下のページに鎮魂法として3つのイメージングを書きました。

それぞれに異なる状態の靈魂に対応するための鎮魂法ですが、実際には私は区別せずに同時にやっています。

ただ、皆さんに説明するにあたり、わかりやすさのために便宜上、このように3タイプに分けてみました。

慣れてくれば、特に意識しないで同時に行なうことができるようになると思います。

イメージングは鎮魂のためのものですが、普段から自分を癒すセルフセラピーや、靈魂との対話法を行なう前の準備としても行ないます。

イメージングのページの写真は靈界や精霊との接点になっていますから、これを見てからイメージすると、彼らとつながることができます。

光のイメージング

迷っている未成仏靈魂を、靈魂のネットワークを使って靈界へ導くイメージングです。



靈界への参入

太陽が靈界への入り口です。

まず青く澄んだ空に輝く太陽を見上げます。太陽に向かって光の速さであがってゆきます。

足下には、青い地球が遙か彼方に見えます。

太陽の輪郭が見えないほど近づいたら、一気に白い光の世界に入ってゆきます。

自分や共にある存在の全てが白い光の中で燃焼し、透明な靈体だけになったとき、太陽の内側の靈界に入っていることに気づきます。

最初は強烈な光だけの世界ですが、だんだんと慣れてくると山や海や草原などが見えてきます。

あなたが今までに観た最も美しい世界です。

あなたが導いてきた靈魂も透明な靈体になっています。

彼らに別れを告げ、目を閉じて深く息を吸い込み、ゆっくり吐ききったときに目をあけると地上に戻っています。

風のイメージング

他者への怒りや恨みで鬼などになった靈魂を、あなたの魂の息吹で癒すイメージングです。

怒りを昇華させる

風の吹き渡る広い草原をあなたの魂の中にイメージして、そこへ彼らをいざないます。

風にあおられて彼らの怒りの炎は一段と激しさを増しますが、目をそらさないで、その燃える様を心静かにじっと見つめます。

彼らの情念の炎が激しく働き掛けてきても静かに見つめ続けます。

やがて炎は小さくなり、消えてゆき、ついには灰が残ります。

灰を両手ですくい上げて、丘の上から下界に向け風の中に放ちます。



水のイメージング

命に執着する未成仏靈魂を、命のネットワークにつながって、流れる水の心地よさで癒すイメージングです。同じ意味で自分の体を癒すときにもこのイメージを使います。

命のネットワークへつながる

全ての命は水の循環によって成り立っている。

昨日、草原に降って多くの命を満たした水は、今日、私の中に在り、明日は河を下って海へと至る。

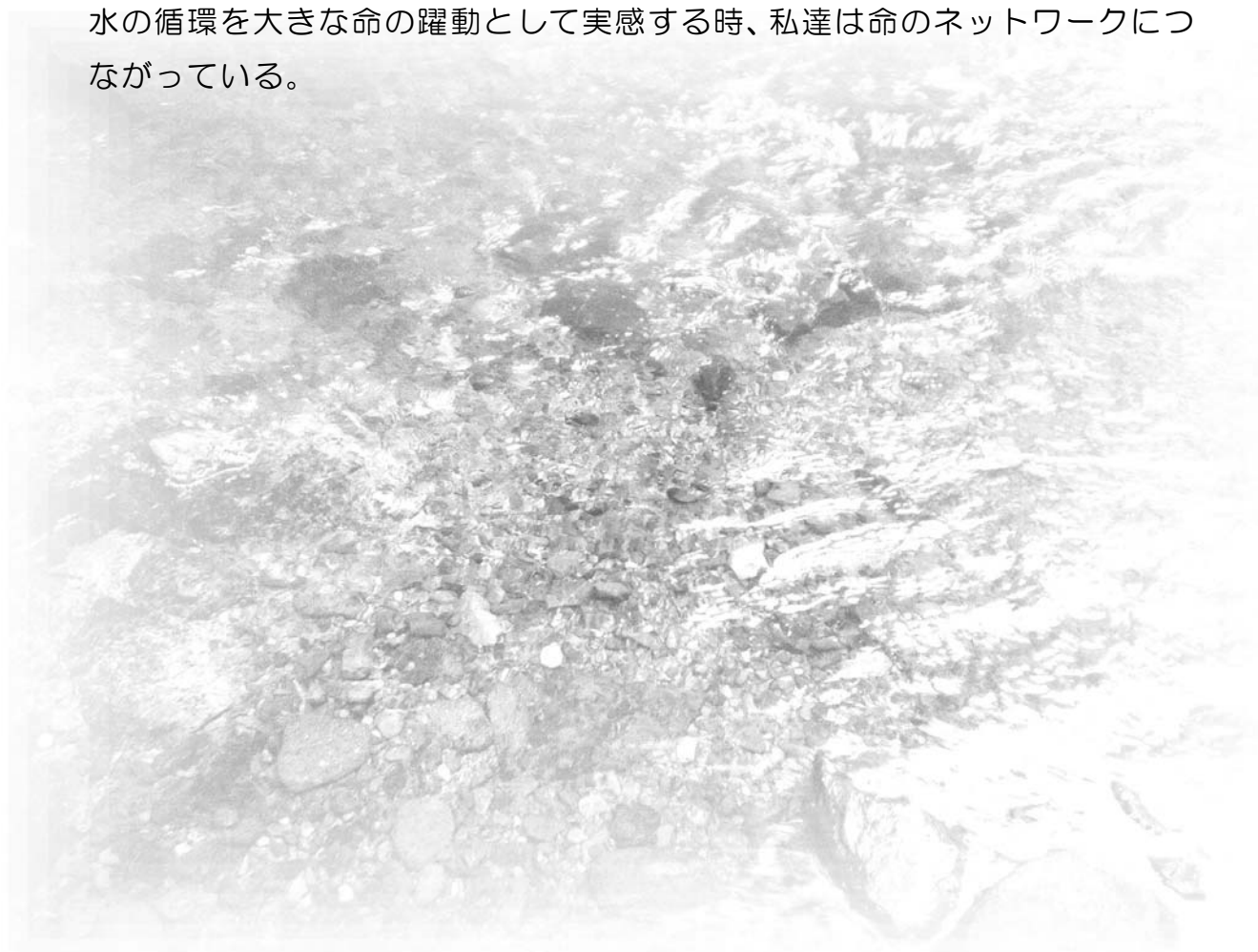
青い海原を揺らし、閃光のような魚類の群れを遊ばせ、深海の名も無い不思議な生物を動かす。

風は波頭を砕き、太陽はまた水を天空に引き上げ、柔らかな雲を蓄える。

私達は水によって命の連なりを実感できる。

孤高にたたずむ巨木や石下に群れる小さな虫達の体にも、私達のからだと同じ水が流れている。

水の循環を大きな命の躍動として実感する時、私達は命のネットワークにつながっている。



7. Q & A

7.1 イメージング（鎮魂）に関すること

Q：イメージングをするときのきまりはありますか？（時間、場所、気をつけることなど）

A：決まりは全くありません。集中できる場所であれば、どこでもかまいません。むしろ場所を選ばずできるようになっておくとう便利です。

Q：見えたり、聞こえたりの靈感が全くないのですが、鎮魂できるでしょうか？

A：鎮魂は苦しんで迷っている霊魂のために行なうことですから、彼らが霊界へあがるのが目的です。あなたが分かるかどうかは最も重要なことではありません。

Q：鎮魂が必要とは思いますが、気持ちが重く、イメージングする気持ちになれません。

A：自分の感じている重苦しさは、自分についている未成仏霊魂の苦悩の深さだと思って、自分と彼らを共に癒すつもりで鎮魂すれば良いのです。

Q：文章の情景をイメージしようと思っても真っ暗で、うまくできていないのかわかりません。祈るだけでもいいのでしょうか？

A：祈りの基本姿勢ができていれば、イメージは無くてもOKです。

Q：どのイメージングを使えばいいのか、どうすればわかりますか？

A：人の気持ちを想像するときと同じように、ついている霊魂の気持ちを想像してみれば、分かります。未成仏霊魂も元は人です。

Q：まわりの人にも参加してほしいのですが、受け入れてもらえません。どうしたらいいですか？

A：善意であっても押し付けにならないように注意するべきです。人は決して説得されません。あなたが世界観の探求に前向きに取り組んでいれば、興味を示してくることもあるかもしれません。

7.2 霊障、因縁などについて

Q：因縁はみんな持っているものなのですか？どのようにすればわかるのですか？

A：転生の経験の中で、何かしらの因縁は持っています。ただし、まだ対応すべき時期で無いものは、現れてきません。

Q：うつになるなど精神的に不安定です。これも霊障ですか？

A：経験上、ほとんどが霊的な原因だと思います。

Q：霊的な問題が解決すれば、体調はよくなりますか？

A：霊的な問題は一過性のことではありませんから、自分の世界観を探究し続ける姿勢を身につければ、身体も整ってゆきます。

Q：霊とかみるのはこわいです。祟られているのを放置するとどうなりますか？

A：未成仏霊魂がついてくると痛みを感じたり、恐ろしいイメージを見たりしますが、彼らも苦しんでいる哀しい存在なのだという慈悲の気持ちを持てば、恐怖はなくなります。放置して居なくなる場合もありますが、あなたの霊的な進化の機会は失われることになります。

Q：恨まれるようなことはしていないと思うのですが、なぜ死霊など送られるのでしょうか？

A：過去生で因縁があるからです。

Q：家族、知人の霊障も解決することはできますか？ 自分にできることを教えてください。

A：基本的には各人が自分で取り組むべきですが、家族はあなたと深い縁があるわけですから、あなたが共に取り組むことはできます。その場合でも本人に説明する必要はあります。

Q：自分で確認できるようになりましたが、つぎつぎと課題がきて、きりがないように思い、不安になります。大丈夫でしょうか？

A：自分の経験値と因縁に見合ったものが来るのですから、受け容れるしかありません。次々と来るのは、あなたが頼れる霊魂だからです。

Q：霊体がなくても人は生きられるのですか？ 未完成な霊魂でもなどでも入っていたほうがマシなのではないですか？

A：霊界は距離や時間に縛られない世界です。霊魂の形がどのようなであっても、それはそれで摂理にのっとっているのです。

Q：自分の過去生の様子をを知りたいです。

A：鎮魂のために必要な場合以外には、全く無意味なことです。

7.3 用語について

Q：キツネ霊はわるいものなのですか？

A：人をからかったり、混乱させようとしませんが、あなたが常に高い存在とつながっていれば、翻弄されることはありません。キツネ霊と人は平行線の存在で、基本的に交流することはありません。

Q：守護霊は誰にでもいるものですか？どんな人が守っているのか知りたいです。

A：誰でも居ます。あなたの役割に応じた霊魂です。

Q：霊魂の経験値が高い、というのはどういう意味ですか？

A：転生の回数が多い霊魂です。他の古い世界からやって来た人たちです。

7.4 その他

Q：夢に意味はありますか？

A：何らかの警告だったりすることも良くあります。寝ている間、霊魂は自由なので他の場所へ行って、得た情報である場合もあります。

Q：金縛りやラップ音はなぜおこるのですか？

A：金縛りはキツネ霊などの作用です。ラップ音はキツネ霊が幽界と現実世界の境界を出入りするときの衝撃音です。

Q：耳鳴りや咳は霊障と関係がありますか？

A：全てが霊的な原因によるものではないと思いますが基本的には霊魂が近づいてくると耳鳴りがします。霊魂の持っている振動です。
咳は胸に未成仏霊魂が入ると、反応として出ます。

Q：動物たちに霊界はないのですか？

A：霊界は人の霊魂だけが行くところです。動物達はグループ魂を経て、ゆくゆくは命の本源に還ってゆきます。

Q：掲示板では同じような相談が続いておこっていますが、なぜですか？

A：霊界の意思に沿って運営されているからです。

Q：なぜ掲示板で相談しただけで、霊障や過去生がわかるのですか？

A：霊魂はネットワークでつながっているからです。過去のことが分かるのは、霊魂には過去の全ての情報が残っているからです。

最 後 に

世界観の話から、実際の鎮魂のイメージまでを書きましたので、これで私の話したいことは、一通り終わりました。

“霊的な障害を自分で治す” ことに必要なことは全て書いたつもりです。でも、これを読んだだけでは、自分の霊的な課題が何であるかを判断することは難しいと思います。

それは鎮魂の経験を積むことで、だんだんと身についてきます。

掲示板では、毎週末に“ネットセラピー”を行なっていますし、対面セラピーも時々、東京、京都などで開催されていますので、鎮魂を探求したいという方は、参加してみてください。

ところで、ここまでを我慢強く読んでくれた人には、この本の中に宿っている精霊やその他の自然の霊魂が寄り添っています。

あ、振返っても居ませんが^^

高度な霊魂は、光や風のようなものですから、気配はとても希薄です。

彼らは同時に複数の人を支援できますし、支援してもらったからと言って、請求書が届くことはありません。

あなたが心を静めて居れば、必ず彼らの声は聞こえてきます。

人の心が、恐怖や憎悪で駆り立てられることが無くなり、誰もが自然体で生きる世界を、彼らは願っています。

私の霊的な活動がその一助となることを期待して、今後もたゆまず、そしてゆる～く続けてゆくつもりで居ます。

この本がきっかけになって、自然の営みの内に命や魂の摂理を感じ、それに則した生き方を求める人が、一人でも増えてくれることを願っています。

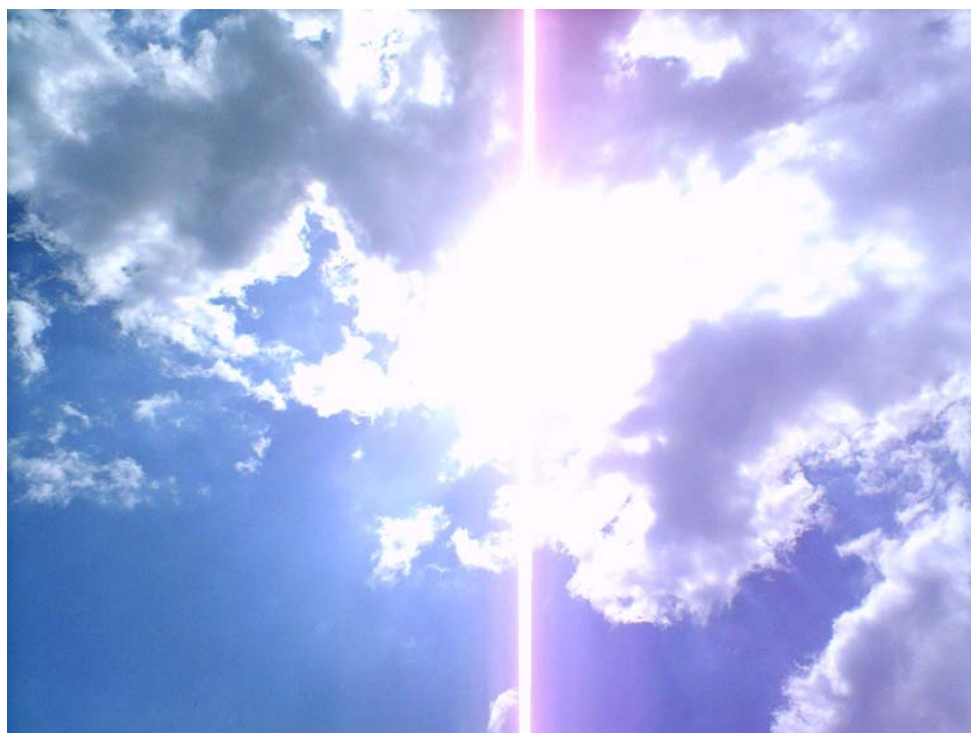
なお、この本の内容に関する御問い合わせは、ネットでのみ受けております。私のメールアドレスは下記のホームページに記載されております。

下記URLで移動するか“靈感おやじ”で検索してください。

S & L ネットワーク研究会（靈感おやじの部屋）

Spirit and Life Network Institute

http://www.geocities.jp/oyaji_reikan/



Nature

2007 June

Photo Gallery

様々な存在、世界



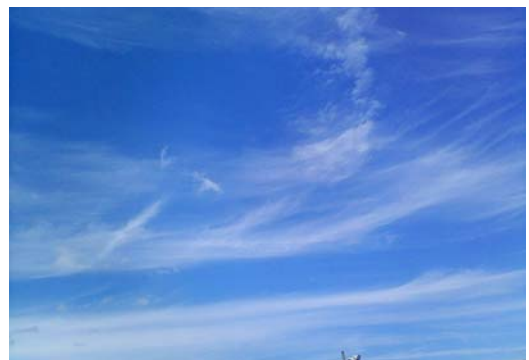
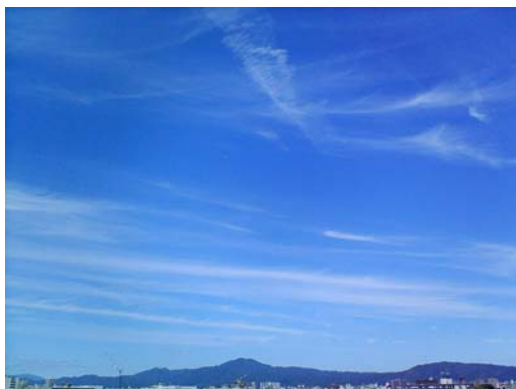
五龍 (Goryu_)



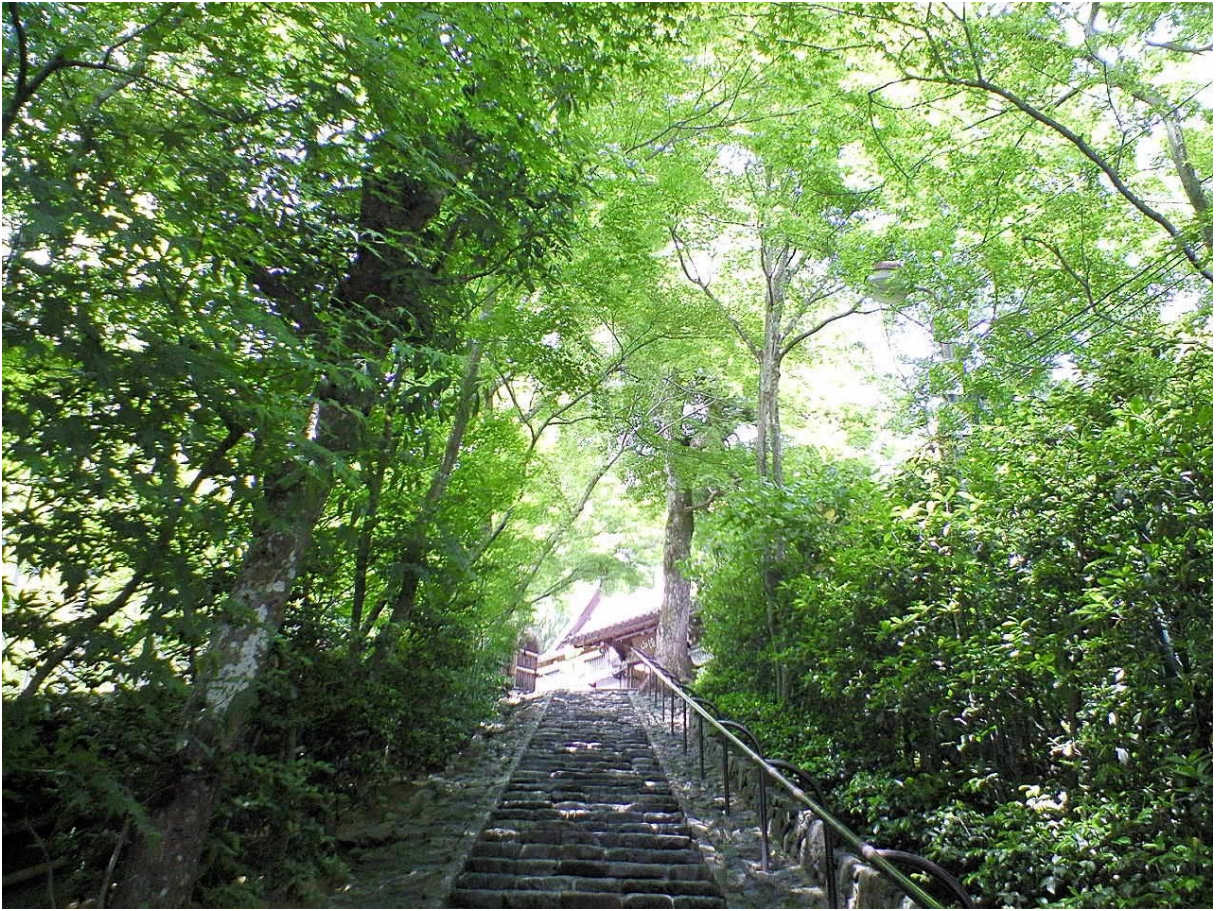
精霊 (Pw)



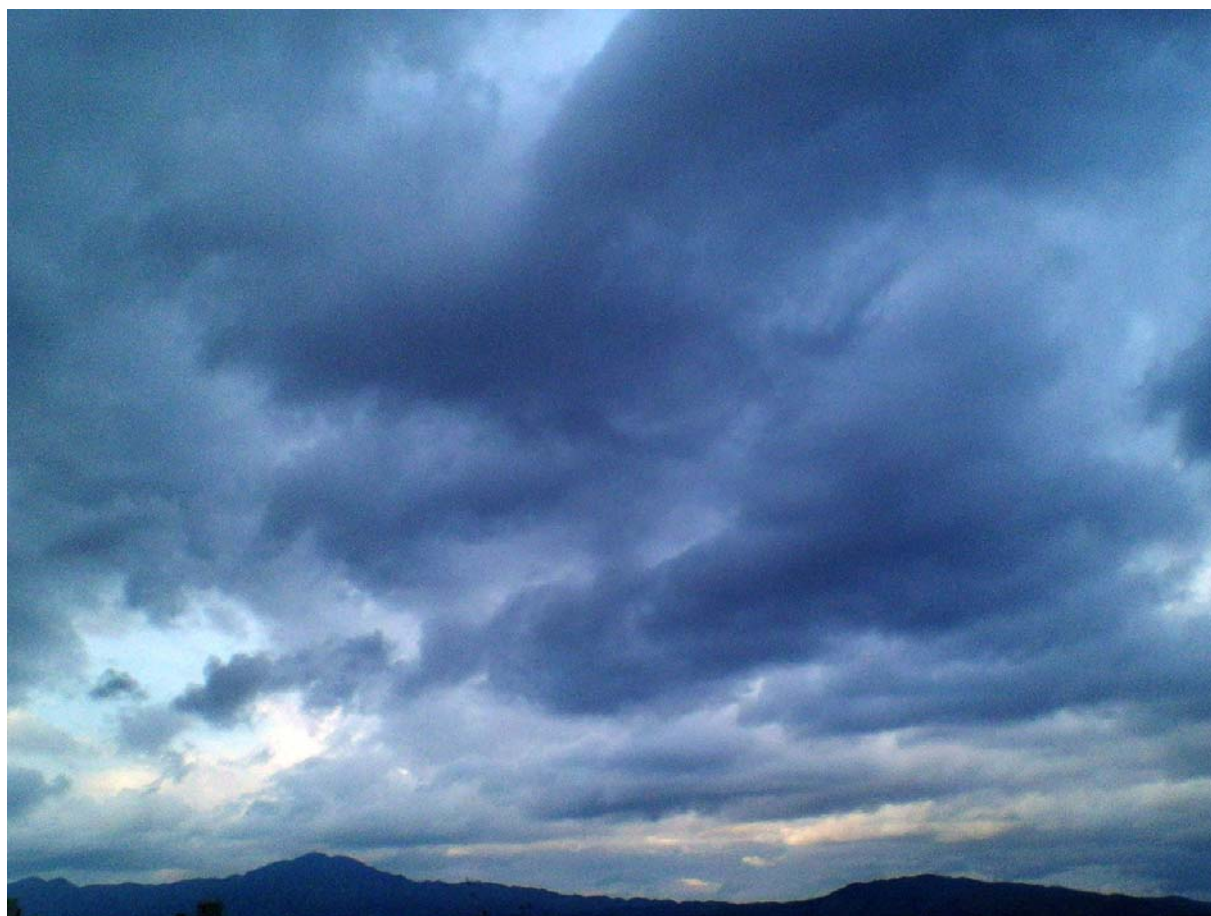
女 (Haha)



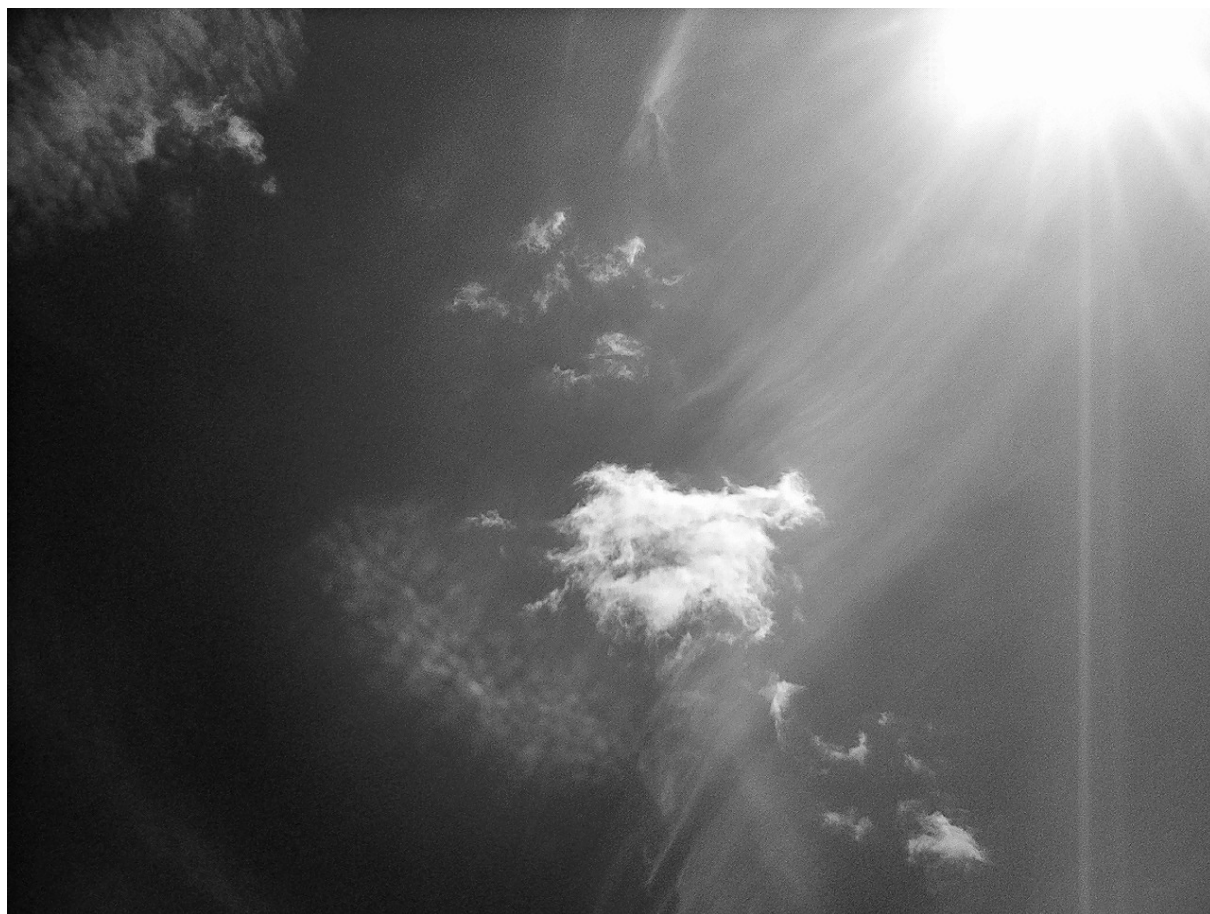
京 (Kanadome)



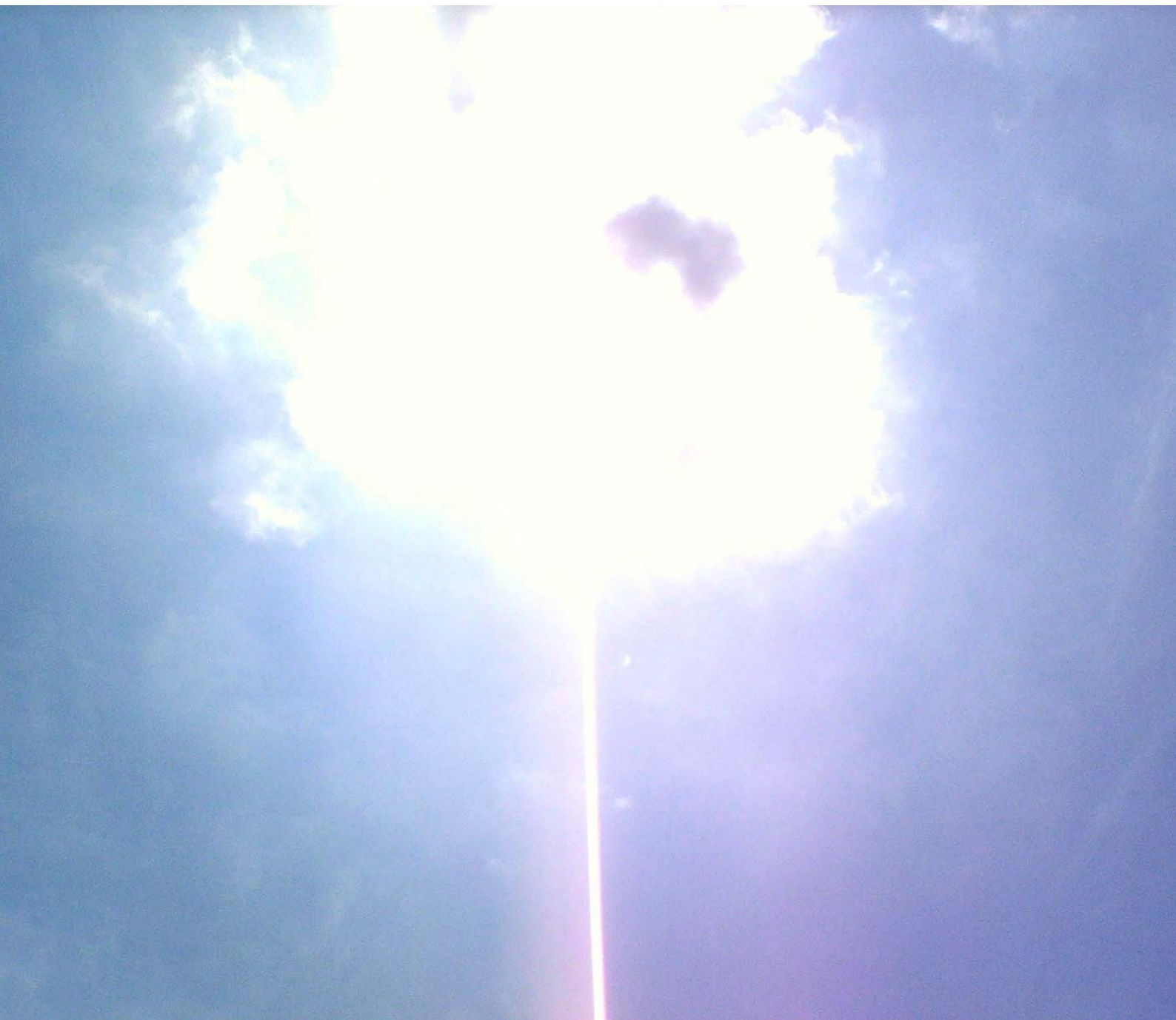
幻 (Kan)



流生 (Inochi)



空 (Ku_)



Γ (Gan)
